

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態 (講義・演習・実験等) の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導 (院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導 (専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価 (評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

## II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. カリキュラム・ポリシーに沿ったシラバスが作成されているか検証する制度を構築する。	→既存のカリキュラム研究委員会 (研究科) による検証および研究科委員会に対する報告書の作成 (2013年度までに)。	C	C			
2. 上記目標を実現するために、ファカルティ・デベロップメント (FD) 活動を充実させる。	→研究科独自の課題に対応するFD研修会の開催 (年2回)。	C	C			
3. 学生による授業評価をファカルティ・デベロップメント (FD) 活動にフィードバックさせる。	→学生による授業評価のFD研修会への反映。	C	C			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明)シラバスについてはすでにWEBサイト上で公開されているが、それに加え、ディプロマ・ポリシー (学位授与方針; 2011年3月研究科委員会承認) を、2011年度初めに行った履修指導で学生に公開。履修計画に際して参考とするよう指導している。論文作成については「学位取得 (修士・博士) までのプロセス」(2008年度設定) に基づき、研究指導を継続している。
小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明)シラバス作成に際して、「授業目的」「到達目標」の記載がまだ十分とは言えない状況である。しかしながら、2011年度中に策定 (明文化) ・公開予定のカリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針) に基づいた記述を考慮・徹底し、それらに沿った授業展開を目指していく。

★ 小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明)2011年度中に整える3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を受けて、適切な成績評価と単位設定の構築段階に進む予定である。博士課程前期課程ではキリスト教神学・伝道者コースおよびキリスト教思想・文化コース、そして4分野(聖書、歴史・文化、組織・思想、実践)において多角的な研究を可能とする必修科目・選択必修科目を体系的に設置している。それぞれ授業科目の内容および形態を考慮しつつ、単位制度の趣旨に沿って単位を設定している。
	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) <b>いずれかにチェックしてください。</b> →→→→→→→→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 検証している <input checked="" type="radio"/> 検証していない (説明)未だ検証方法の構築には至っていない。「授業評価」については全学的に調査を実施し、個別科目についてだけでなく、カリキュラム構成についての学習効果、あるいは全体的な学習環境などについても言及している。しかしながら回収率は芳しくなく(2008年度からの3年間で平均10%弱)、まずはその点について改善が求められている。
その他	

《評価指標データ》

- 履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次semesterごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
- 成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
- GPA値(全学、学部別、男女別など)
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業(授業公開)の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目6.3.1		
小項目6.3.2		
★小項目6.3.3		
小項目6.3.4	教育成果の検証について、「授業評価」調査の回収率が芳しくない。	
その他		

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目6.3.1		
小項目6.3.2		
★小項目6.3.3		
小項目6.3.4	「授業評価」調査の回収率を向上させる仕組みを検討する。	
その他		

## ◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	

## Ⅲ. 学内第三者評価

## &lt;評価専門委員会の評価&gt;

## 【学外委員】

○中項目6.3では、あまり進展が見られないようです。一層の努力が望まれます。

○小項目6.3.1については、講義、演習、(もしあるとすれば)フィールドワーク等、授業の形態や方法についても検討・記述することが望まれます。

## 【学内委員】

○小項目6.3.1～3の現状説明が現状の説明になっていません。現時点で可能な限り、小項目に対応した評価をしてください。特に「適切性」についての判断を示すことが求められます

○6.3.4の「改善すべき事項」でも挙げられているとおり、「授業評価アンケート」の回収率を向上させることも大事ですが、果たして教育成果を検証する方法として、「授業評価アンケート」の結果が適当なのでしょうか。前年度の同小項目の現状説明では“アンケートによって抽出された課題に対応するFD研修会を開催して仕組みづくりを検討する”ということでしたが、その方向性は変わっていないという理解でよろしいでしょうか。

○小項目6.3.1～6.3.3の記述内容は、十分とは言えない印象です。自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことのわかる必要があります。そのためにも、各小項目においてもう少し小項目の内容に添えるよう説明が欲しいところです。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・改善に結びつける仕組みは大変難しいとは思いますが、是非検討してください。

・大学院の授業評価は少人数のため難しい点がありますが、成果を測る方法としてその利用を考えてください。

・現状説明の小項目6.3.1および6.3.3において、その適切性についての記述が望まれます。また、小項目6.3.2ではシラバスと授業の整合性についての記述が望まれます。

## 【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】

## ○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置(厳格な成績評価など)が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

## ○小項目6.3.2&amp;6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

## ○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」

達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

## ○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」(評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。)

・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性

・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み

・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目6.3.1における現状説明について、博士課程前期課程において将来伝道者、クリスチャンワーカー、教育職などをを目指す学生の訓練を目的に「教会実習」「キリスト教社会実習」「臨床牧会実習」を開講し、理論と実践の両面から研究にアプローチするよう促している。

★ また博士課程後期課程においては学会への所属をはじめ学会発表、論文発表を通じて学位論文作成の指導を「研究演習」のなかで行っている。なお、論文作成については「学位取得（修士・博士）までのプロセス」（2008年度設定）に基づき、指導を継続している。